感染防止安全計画

別紙１

１.開催概要　　※「感染防止策チェックリスト」の開催概要の添付でも可

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| イベント名 | | 天皇杯 JFA 第102回全日本サッカー選手権大会 決勝  http://www.jfa.jp/match/emperorscup\_2022/ | | | |
| 出演者・  チーム等 | | ヴァンフォーレ甲府と鹿島アントラーズの勝利チーム  VS, 京都サンガF.C.とサンフレッチェ広島の勝利チーム  （いずれも10月5日(水)決定予定） | | | |
| 開催日時 | | 令和4年10月16日　（14時00分～16時00分頃）  ※延長・PK戦となった場合は40～50分程度延長 | | | |
| 開催会場 | | 日産スタジアム（<https://www.nissan-stadium.jp/>） | | | |
| 会場所在地 | | 〒222-0036 神奈川県横浜市港北区小机町３３００ | | | |
| 主催者 | | 公益財団法人日本サッカー協会（JFA）  公益社団法人日本プロサッカーリーグ（Jリーグ） | | | |
|  | 所在地 | 〒113-8311　東京都文京区本郷3-10-15 | | | |
| 連絡先 | [yamato.kaizuka@jfa.or.jp](mailto:yamato.kaizuka@jfa.or.jp)　080-9868-7369 | | | |
| 収容率  （上限）  いずれかを選択 | | **大声なしで開催** | | | |
| **□** | **①収容定員あり**  100％ | **□** | **②収容定員なし**  人と人が触れ合わない程度の間隔 |
| **「大声あり」、「大声なし」のエリアを明確に区分して開催** | | | |
| レ | **③収容定員あり**  大声なしのエリア:100％  大声ありのエリア:50％ | **□** | **④収容定員なし**  大声なしのエリア:  　人と人が触れ合わない程度の間隔  大声ありのエリア:  　十分な人と人との間隔(最低１ｍ) |
| 収容定員 | | 大声なしのエリア　48,000人  大声ありのエリア　9,200人（注） | | ― | |
| 参加人数 | | 大声なしのエリア　48,000人  大声ありのエリア　9,200人（注）人 | | | |
| その他  特記事項 | |  | | | |

（※）大声の定義を「観客等が、通常よりも大きな声量で、反復・継続的に声を発すること」とし、これを積極的に推奨する又は必要な対策を十分に施さないイベントは「大声あり」に該当するものとする。

（注）収容率（上限）において、③を選択した場合は、「大声あり」と「大声なし」のエリアの区分ごとの収容定員・参加人数を記載すること。

２.具体的な対策

１．イベント参加者の感染対策

（１）感染経路に応じた感染対策

①飛沫感染対策

＜チェック項目＞

レ 適切なマスク(不織布マスクを推奨。以下同じ。）の正しい着用の周知・徹底

レ イベント会場(客席、入退場口やトイレ等の共用部)におけるイベント参加　 者間の適切な距離の確保

「大声あり」「大声なし」のエリアを区別して開催する場合、下記対策を加える

レ 大声ありエリア・大声なしエリアの明確な区分があり、それぞれにおけるイベント参加者間の適切な距離の確保

レ 大声なしエリアにおける、大声を防止するための対策の実施

＜具体的な対策＞

|  |
| --- |
| ＜記載項目（例）＞  ※対策の例であり、必須の取組ではないことに留意すること   * マスクを着用しない者や大声を出す者(大声なしの場合)に対する個別注意等の具体的方法の検討・実施 * マスクを着用しない者や繰り返し大声を発する観客(大声なしの場合)の退場措置の事前準備・周知(チケット購入時の約款に明記等）。 * 応援自粛に係るファンクラブ等との事前調整。 * 警備員や映像・音声によるモニタリング、個別注意や退場の徹底 * 入場ゲートの増設、会場時間の前倒し、時間差・分散退場の実施、密集を回避するための人員配置や動線確保等の体制構築、交通機関との連携(駅付近の混雑度データを踏まえた増便等)による誘導 * 密になりやすい場所での二酸化炭素濃度測定等を活用した混雑状況の把握・管理、マーキング、誘導員等の配置による誘導   「大声あり」「大声なし」のエリアを区別して開催する場合、下記対策を加える   * チケット販売時等におけるエリア区分に関する周知・徹底 * イベントごとの声出し応援のルール等の周知・徹底 * 座席指定等エリアごとにチケットを分けて販売 * 主催者及び出演者等からのアナウンスや警備員の配置等による、大声なしエリアにおける応援自粛の呼びかけ、及び大声を出す者がいた場合の個別注意や退場の徹底 |

（記載欄）

（１）大会ホームページ（来場に際して／禁止事項、観戦ルール＆マナー）にて、マスク着用義務を明記する。

（２）マスク未着用者が来場した場合には、主催者が準備したマスクを警備スタッフが手渡し、必ずマスク着用を確認のうえ入場していただく。それでも着用を拒否する場合は当該者の入場を認めない。

（３）会場内におけるサイネージの掲示、係員によるアナウンス、場内音響によるアナウンス・場内大型ビジョンにてマスク着用を繰り返し呼びかける。

（４）コンコースから観客席へ向かうチケットチェックの際に係員がマスク着用を確認。着用を拒否する場合は当該者を退場させる。

（５）万一、入場後にマスクを失くした・汚した観客を確認した、または申し出があった場合は、警備スタッフがマスクを渡すことで着用率100％を担保する。

（６）大会ホームページにて、大声ありエリアと大声なしエリアが明確に区分されていることを明記するとともに、それぞれのエリアにおける応援ルール・禁止事項等を事前に告知する。

（７）チケットについても分けて販売を行い、当該エリア間を行き来できないよう警備スタッフが券面チェックを行う。

（８）会場内におけるサイネージの掲示、係員によるアナウンス、場内音響によるアナウンス・場内大型ビジョンにて大声なしエリアにおける以下行為を禁止している旨、告知する。

　・歌を歌うなど声を出しての応援

　・指笛、チャント、ブーイング、応援の扇動など、声を出す行為

　・トラメガを含むメガホンの使用　等

（９）大声なしエリアにおいて上記（８）が確認された場合、当該者に注意を与えるとともに、警備スタッフの指示に従わない場合は退場させる。

（１０）試合開始3時間前に開場し入場可とすることで時間差での入場を促す。

また、試合後には座席ブロックごとに時差退場を実施することにより、出口付近及び近隣駅での密集を未然に防止する。

（１１）コンコース等での長時間の密集が発生しないよう、警備スタッフが適宜声掛けを行う。

②エアロゾル感染対策

＜チェック項目＞

レ 機械換気による常時換気又は窓開け換気

* 必要な換気量(一人当たり換気量30㎥/時を目安)を確保するため、二酸化炭素濃度を概ね1,000ppm以下を目安(二酸化炭素濃度測定器の活用が効果的)
* 機械換気が設置されていない場合の窓開け換気は、可能な範囲で２方向の窓開け
* 機械換気・窓開け換気ともに相対湿度の目安は40-70％
* 屋外開催は除く

レ 適切なマスクの正しい着用の周知・徹底【①と同様】

レ イベント会場(客席、入退場口やトイレ等の共用部)におけるイベント参加者間の適切な距離の確保【①と同様】

＜具体的な対策＞

|  |
| --- |
| ＜記載項目（例）＞  ※対策の例であり、必須の取組ではないことに留意すること   * 各施設の設備に応じた換気 * 施設に備わっている換気設備の確認、その仕様を踏まえた適切な換気 * 二酸化炭素濃度測定器による常時モニターや映像解析を活用した換気状況を確認するための手法の検討・実施 * 換気能力維持のための定期的な検査・メンテナンス * マスクの着用及び距離の確保については、①飛沫感染対策の対策例を参照 |

（記載欄）

　（１）選手控室を含む運営諸室、VIPラウンジ、スカイボックスは原則としてドアを解放し、常時換気を行う。

　（２）換気状況が悪い部屋については送風機を設置するなどの対応を行う。

　（３）①と同様、観客・招待客・運営スタッフ等の来場する全ての者が常時マスクを着用し、着用していない場合は入場を認めない対策を行う。

（４）密集する可能性のある売店、トイレにおいては観客間の距離を確保するようスタッフ等から声掛けし、密集が確認された場合には警備スタッフが観客同士の距離を確保するよう誘導する。

③接触感染対策

＜チェック項目＞

レ イベント参加者によるこまめな手洗・手指消毒の徹底や、主催者側によるイベント会場(客席、入退場口やトイレ等の共用部)の消毒の実施

レ イベント会場(客席、入退場口やトイレ等の共用部)におけるイベント参加者間の適切な距離の確保【①と同様】

＜具体的な対策＞

|  |
| --- |
| ＜記載項目（例）＞  ※対策の例であり、必須の取組ではないことに留意すること   * 具体的な手洗場、アルコール等の手指消毒液の設置場所、準備個数等の検討・実施 * アナウンス等による手洗・手指消毒の呼びかけ * 距離の確保については、①飛沫感染対策の対策例を参照 |

（記載欄）

（１）大会ホームページにて、「手洗い、消毒をこまめにしましょう」と記載

し啓発を行う。

（２）開場前に観客席・トイレ等、共有エリアの掃除・消毒を実施する。

（３）スタジアム内で多くの観客が使用する入場ゲート、トイレ、飲食売店のテーブル等に消毒液を配置し、スタジアムのどの場所でも手指消毒が行える体制を整える。

（４）場内アナウンス・場内大型ビジョンにて「手洗い、手指消毒をこまめに行うよう」繰り返し呼びかけ、大型ビジョンにてサイネージを掲出する。

（２）その他の感染対策

④飲食時の感染対策

＜チェック項目＞

レ 上記(１)感染経路に応じた感染対策と併せて、飲食時の感染対策(食事中以外のマスクの着用、飲食に伴いマスクを外す際の会話自粛等)の徹底の周知

＜具体的な対策＞

|  |
| --- |
| ＜記載項目（例）＞  ※対策の例であり、必須の取組ではないことに留意すること   * アナウンス等による飲食時の感染対策の呼びかけ * 飲食専用エリアの設置及び当該エリアでの飲食の推奨 * 飲食店に求められる感染対策等を踏まえた飲食専用エリアでの感染対策(身体的距離の確保、マスクを外して会話を行なう者への個別注意等)の実施 |

（記載欄）

（１）大声エリア内においてはアルコールの持ち込みを禁止、その旨を大会ホームページで事前に告知する。

（２）大会ホームページで、以下の内容を事前に告知する。

　・飲食時にマスクを外している間は話さない、話しかけない

　・飲食後は速やかにマスクを着用する

（３）飲食を提供する売店等のスタッフは全員がマスクを必ず着用し、こまめな消毒を実施する。

（４）運営スタッフの食事専用部屋を用意し、関係者各々が各諸室で食事をしないオペレーションとする。

⑤イベント前の感染対策

＜チェック項目＞

レ 発熱等の症状がある者へのイベント参加の自粛の呼びかけ

＜具体的な対策＞

|  |
| --- |
| ＜記載項目（例）＞  ※対策の例であり、必須の取組ではないことに留意すること   * 体制構築の上、検温・検査の実施 * 発熱等の症状がある者の参加自粛を促すことができるキャンセルポリシーの整備 |

（記載欄）

（１）試合運営に際しては、JFA試合運営ガイドラインに従って運営を実施する。

（２）試合に参加する選手およびチーム役員は、出場クラブの管理のもと毎日の検温をはじめとした健康管理を実施、記録する。

（スタジアムへの来場2週間前に限らず、常時健康管理を実施、記録する）

（３）観客、スタジアムで業務にあたる全てのスタッフ、来場するメディア、VIPゲストは2週間前から検温等の健康チェックを実施し、入場前には検温を行い、発熱している人、体調の悪い人はスタジアム内に入れないようにする。

⑥感染拡大防止策

＜チェック項目＞

レ イベントで感染者が発生した際、他の参加者への注意喚起

＜具体的な対策＞

|  |
| --- |
| ＜記載項目（例）＞  ※対策の例であり、必須の取組ではないことに留意すること   * 感染者が発生した旨を他の参加者へ迅速に周知すること * COCOAや各地域の通知サービス(BluetoothやQRコードを用いたもの等)等による来場者情報の把握・管理手法の確立(アプリ等の確実なダウンロードや来場者情報を把握するための具体的な措置の検討) * チケット購入時の参加者の連絡先把握 |

（記載欄）

（１）入場時の有症状者の扱いについて事前告知を徹底し、有症状者の入場を確実に阻止するとともに払い戻し不可に対するクレームを最小限におさえる。

（２）オンラインでチケット販売することにより、参加者の連絡先を把握する。

２．出演者やスタッフの感染対策

⑦出演者やスタッフの感染対策

＜チェック項目＞

レ 出演者やスタッフによる、練習時・本番時における上記(１)感染経路に応じた感染対策に加え、健康管理や必要に応じた検査等の実施

レ 舞台と客席との適切な距離の確保等、出演者やスタッフから参加者に感染させないための対策の実施

＜具体的な対策＞

|  |
| --- |
| ＜記載項目（例）＞  ※対策の例であり、必須の取組ではないことに留意すること   * 日常から行なう出演者やスタッフの感染対策の実施 * 健康アプリの活用等による健康管理 * 出演者やスタッフの必要に応じた検査の実施 * 発熱等の症状がある者は出演・練習を控える * 練習時やその前後の活動等における適切なマスクの正しい着用、出演者やスタッフの関係者間の適切な距離確保、換気等 * 本番及びその前後の活動における出演者やスタッフの感染対策(舞台上等でのマスク着用の有無等に応じた適切な距離の確保、換気、飲食を伴う際の適切な感染対策等)の実施 * ステージと観客席間の適切な距離の確保、出演者やスタッフ及び観客双方への感染対策の周知 |

（記載欄）

（１）試合に参加する選手およびチーム役員は、出場クラブの管理のもと毎日の検温をはじめとした健康管理を実施、記録する。

（スタジアムへの来場2週間前に限らず、常時健康管理を実施、記録する）

（２）試合に参加する選手・チーム役員合計60名は定期的な抗原定性検査を実施する（週1～2回程度）。選手と接触する可能性のあるエリアで運営に関わる約20名の運営スタッフは、来場する日の朝に抗原検査を実施し、陰性が確認された場合にのみ業務にあたる。

（３）選手およびチーム役員はバスでスタジアムに来場し、専用の入場口からスタジアムへ入場することで一般の観客、検査を受けていない関係者と接触しない動線を確保する。

※提出時には、イベントのチラシや計画書等（既存資料）、参考とした業種別ガイドライン等も添付してください。

*３は、該当する場合のみ記載してください。*

３.専門家との調整状況　　　※専門家の事前確認を受けた場合に記載

助言を受けた専門家：（所属）  
　　　　　　　　　 （氏名）  
 主な助言内容：